



撮影：小林 博氏



奈良県版

No. 348

2022年1月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
奈良県本部
〒630-8442
奈良市北永井町 277-3
田辺実気付
☎ 0742-61-7194
振替 0990-2-209460
治安維持法国賠同盟
奈良県本部

われわれの 運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する
 - 二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること
 - 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

いまこそ不屈の精神で！

支非干渉運動」が展開されました。奈良県でも「対支非干渉同盟奈良地方同盟」を結成して運動が繰り広げられました。「この運動を展開したのは全国でわずか数府県であることを考えると、本県での運動の高揚が推察される」（『奈良県警察史』昭和編53ページ）と言われるほどでした。

中国への侵略戦争に反対し、国民主権を主張して全国の最前線で闘った先達の遺志を継ぎ、今こそ不屈の闘いを全力で進めましょう。

2022年元旦

治安維持法犠牲者国賠同盟
奈良県本部

会長 田辺 実
同県本部理事一同

1931年1月、松岡洋右代議士が衆議院で「満蒙は日本の生命線」と叫び、日本軍部が本格的に中国侵略を開始した歴史を想起させます。
1927年には、日本帝国主義政府の山東出兵に対して、全国的に「対



王希奇「一九五六」高知展観賞バスツアーの一行。高知市文化プラザ＝2021年11月

旧「満州」葫蘆(コロ)島から、命からがら引き揚げてきた人々を描いた絵「王希奇『一九四六』の「高知展」に、昨年11月28日、29日に鑑賞バスツアーがおこなわれました。「奈良・長谷川テル顕彰の会」(会長 宮城恭子さん 以下「テル顕彰の会」)が主催24名

般若寺境内に顕彰碑建立へ全力―王希奇「一九四六」高知展ツアー―

旧「満州」葫蘆(コロ)島から、命からがら引き揚げてきた人々を描いた絵「王希奇『一九四六』の「高知展」に、昨年11月28日、29日に鑑賞バスツアーがおこなわれました。「奈良・長谷川テル顕彰の会」(会長 宮城恭子さん 以下「テル顕彰の会」)が主催24名

が参加しました。

この鑑賞ツアーを通じ、「テル顕彰の会」が当面にかけている般若寺境内への治安維持法犠牲者・長谷川テル顕彰碑建立を実現し、さらに当時の国家権力・軍部がテルさんら、平和と国民主権を主張した人々を、「売国奴」と罵って弾圧したことへの謝罪と賠償の実現を目指す取り組みの重要な一環であることの再認識を強めました。

参加者からは、「我々もここ奈良の地・般若寺に長谷川テルの碑を建立し、愚かな戦争を繰り返さない訴えを強めていけたらと思います」などの感想が寄せられています。

長谷川テルの顕彰事業を推進している「テル顕彰の会」は、2017年に国賠同盟奈良県本部の提唱で結成され、当面、般若寺境内に「長谷川テル訪問記念の碑」の実現目指し、200万円の募金活動をすすめています。

治安維持法犠牲者・長谷川テル顕彰事業は平和な日本と世界を創造する活動

迎春

憲法改悪阻止！ 参議院選でも市民と野党の共同を

新たな闘いの年を迎え、ごあいさつ申し上げます。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部役員一同

奈良県本部役員・顧問

会長

田辺 実

事務局長・会計

加藤宣之

事務局次長・県調査部長

中森 功

常任理事

同 伊藤恵美子

同 稲月 典澄

同 伊藤恵美子

同 奥西 正史

同 越山のぶ子

同 白川 嘉秀

同 杉本 英雄

同 藤本みや子

同 松下 光人

同 向川 征秀

同 山田トシエ

理事

小林 照代

同 白川健太郎

同 山口 裕司

同 宮本 次郎

同 米本 佳由

会計監査

尾口 五三

同 高橋 重明

顧問

同 溝川 悠介

同 吉田 恒俊

第34回奈良県本部総会のお知らせ

1、と き 2022年1月29日(土)午後1時半～

1、場 所 奈良市生涯学習センター

1、議 題

・憲法改悪阻止を中心とした当面の方針

・映画「わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯」上映運動の成功めざす

・次期役員の選出

・その他

迎春

二〇二二年 元旦



日本共産党 奈良県委員会
奈良市四条大路二二二一六
電話 〇七四二二三五五八二

日本国民救援会奈良県本部
奈良市西木辻八軒町二〇〇 白鳥ビル2F
電話 〇七四二二六五三三八

奈良県民主医療機関連合会
橿原市八木町一八二五
ヤマト一八木店 4F
電話 〇七四四二二二二〇一

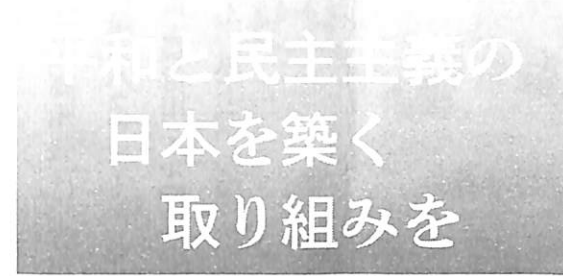
医療法人 岡谷会
奈良市西木辻町二〇〇番地
電話 〇七四二二三二二五〇一

社会医療法人 平和会
奈良市西大寺赤田町一七一
電話 〇七四二二四五四六〇一

「高知展」7日間で2782人が来場

「高知展」は、当初目標1500人でしたが、7日間で2782人が来場したと報告されています。「テル頭彰の会」は、長谷川テ

ル頭彰事業の推進は、平和な日本と世界を創造する運動の重要な一環であることを確認し、記念碑の実現めざし新年早々から取り組みを強めることを確認しています。



「不屈の家族 林家の人々」のたたかいに学び

12月4日榎原市内で開かれた講演会『不屈の家族 林家の人々』で、林直子さんと林友雄さんが、治安維持法で弾圧され

奈良刑務所に収監された叔父・林三郎さんや、戦後レッド・パージにあった父・林一雄さんら、林家の人々の闘いを詳しく語り、参加者に感銘を与えました。

また、田辺実国賠同盟県本部会長は『林家の人々』を語り継ぐ意義を考える」と題して報告を行いました。講演会は、榎原市市民団体連絡会と子どもと教科書ネット21が主催したもので、30名が参加しました。

講演を行った林直子さんは、毎日新聞の記者をしてレッド・パージにあった父・林一雄さんから買ってもらったアルミニウムの指輪を示しながら、一雄さんの詩集『埋火』に所収されている「指輪（別掲）を朗読し、困窮のなかでも真摯に生き抜いた父の生き様を語りました。

また、林友雄さんは、林家の人々について詳しく語り、自らは「榎原市9条の会」が発足して16年になるがその世話人として活動を続けてきたと述べ、「真のジャーナリストとして信念に生きた父一雄のようには、どんな不条理、不正も許さない立場で活動していることを誇りにしている」と講演を結びました。

田辺県本部会長は、「再び戦争と暗黒政治を許さない」をスローガンに掲げて活動している国賠同盟の役割を強調、「林家の人々」を語り継ぐことは、現在と未来にわたって平和を守る運動は、平和を主張して闘った先人の遺志を継ぐ重要な営みであり、こうした活動をすすめている国賠同盟の会員を増やし、県下第二の都市・榎

林直子さんが朗読した林一雄さんの詩を紹介します。

指 輪

生まれてはじめて
指に指輪というものをはめた
はばかりながら
こいつは白き純アルミニウムのしろものである
ホー・チ・ミンの国ベトナムの人びとが
撃ち落とした怪鳥B52の残骸から
手づくりにして送ってよこした
言語に絶するかれらの苦しみと
光輝あるそのいさおしを思うにつけ
これは手離せない
金よりもダイヤよりも
白きこのかがやきはかれらの誇り
わがはげましといましめである

林一雄詩集『埋火』より

社会医療法人 健生会 大和高田市日之出町十二番八号 電話 〇七四五・五三二・五四七	社会福祉法人 秋篠茜会 理事長 山村弘成 奈良市西大寺赤田町一七七一 電話 〇七四二・五二四・四三一五	奈良県商工団体連合会 奈良市大森西町十三十六 民商ビル四F 電話 〇七四二・三〇一・三九〇三	奈良民主商工会 奈良市大森西町十三十六 民商ビル 電話 〇七四二・三三二・七二六六	大和郡山・斑鳩民主商工会 大和郡山市田中町一九一三 電話 〇七四三・五三三・三四八五	天理民主商工会 天理市田井庄町六五九 電話 〇七四三・六三二・六〇三〇
---	--	---	--	--	---

榎原民主商工会 榎原市雲梯五一四一三 電話 〇七四四・二四二・〇三三三	葛城民主商工会 大和高田市大中二一十五 電話 〇七四五・五二〇・八八一	葛城北民主商工会 北葛城郡広陵町大字三吉二〇一三 電話 〇七四五・五五八・五三〇	吉野民主商工会 吉野郡大淀町越部一三〇〇 電話 〇七四七・五二八・七一五	奈良革新懇 (平和・民主主義・革新の日本をめざす会) 奈良市西木辻町二〇〇一七 新谷ビル二F 奈良労働気付 電話 〇七四二・二四三・〇九九	奈良県労働組合連合会 奈良市登大路町五五 電話 〇七四二・二六七・一三五 FAX 〇七四二・二七三・三三四
---	---	--	--	---	--

原市に国賠同盟の支部を確立して欲しいと訴えました。

参加者から、治安維持法犠牲者の竹村奈良一氏の親戚にあたる女性が、「林先生の中学時代の教え子です。今日の集会が新婦人の新聞に折り込まれていたのに参加しました」と語るなど共感の輪が広がりました。

樽井幸一郎子どもと教科書ネット21の事務局長がこの日の講演会の司会を務めました。

川柳

奈良の愚僧

金と欲く石原軍団夢のあと
宝くじ当たる前から使い道

大和郡山支部 杉本 英雄

今年こそまた今年こそ今年こそ

「寅」の字にあやかり「成長」願う我

森友の真相黒塗り国主導

訃報

藤江知世さん

2021年12月2日に逝去。78歳。大阪府枚方市。治安維持法犠牲者・鳥井弥寿吉さんの長女。鳥井さんの顕彰事業に協力していただきました。

山内進吾さん

12月29日に逝去。85歳。同盟奈良県本部常任理事・調査部員。『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』の編集など県同盟の発展に多大な貢献されました。

お二人のご冥福をお祈りいたします。

署名数・会員数の到達(1月1日現在)

団体署名 二四(前月比十一増)

個人署名 六五三(前月比四四四増)

会員数 四二二名(前月比二減)

(二名死亡)

旧奈良監獄署名 二九四(前月比九二増)

国賠同盟近畿ブロック会議 in 奈良

昨年11月に奈良市内で開かれた国賠同盟近畿ブロック会議で宮本次郎さんが青年部の活動について発言されました。その要旨を紹介します。

毎回新たな発見、

学ぶたびに背筋に芯が入る

奈良県本部青年部長 宮本次郎

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟、近畿ブロック会議にご参加の同志の皆さん、お疲れ様です。ようこそ奈良県においでくださいました。

私は奈良県青年部長の宮本次郎です。青年部長といっても、もう46歳。2012年に奈良県青年部発足から9年がたちました。そろそろ世代交代をしなければなりません。1年1回程度、フィールドワークで交流

奈良県青年部の活動は、田辺会長が述べた通り、2つです。「機関紙に目を通す」と

と、「1年1回程度、フィールドワークで交流する」です。これまでに、先達のたまたかに学ぶフィールドワークで交流してきました。

その内容を振り返って見ますと次の通りです。

◆奈良教育大学での「特高月報」閲覧◆その近くにある「志賀直哉旧居」■小林多喜二が宿泊したとされる部屋が展示されています◆東吉野村にある「松本元市郎」■元村の収入役で「負けいくさやめろ」と県道わきに大書して投獄された方、の墓参◆50周年記念DVD「種まく人々」の上映会◆京都府宇治市へ、山本宣治の墓参と宇治川散策。学生インターンも多く参加◆大阪府和泉市へ、阪口喜一郎の墓参と黒鳥山公園散策などです。毎回新たな発見があり、学ぶたびに、ピシッとして背筋に芯が入る思いです。また、フィールドワークそのものが楽しい企画となっており、困難な中でも楽しい活動で組織を作っていた先輩たちの活動に思いをはせています。

奈良県教職員組合

奈良市登大路町五一五

電話〇七四二二〇七七一

岡谷医療介護福祉労働組合

奈良市西木辻八軒町二〇〇

電話〇七四二二二七九八五〇

平和会医療労働組合

執行委員長 弘田嘉伸

奈良市西大寺赤田町一七一

電話〇七四二二四五四六〇一

厚生会労働組合

執行委員長 安田 久美子

大和高田市日之出町十二三

電話〇七四五二二一六五九一

奈良自治労連

大和郡山北郡山町二四六 大和ビル

電話〇七四二二五五三〇六〇

かつらぎ法律事務所

大和高田市中大十二一法友ビル一階

電話〇七四五二二二七七〇〇

奈良県医療介護福祉労働組合連合会

執行委員長 弘田嘉伸

奈良市西木辻八軒町二〇〇

電話〇七四二二二七九八五〇

私は2年前の県議選で、定数が3から2に削減される中、維新の会の新人にわずか27票で敗れるというたいへん悔しい思いをいたしました。先日、衆院選では、地元生駒郡では比例票で公明党に勝利しましたが、維新にはダブルスコアで敗れています。政治を変えたいという有権者の思いが、維新に流れますので、維新を批判しても日本共産党の支持にはつながりません。野党共闘の共通政策や、国民の声が届く「夢のある」政権構想を語る。こと、99年の歴史を持つ日本共産党の魅力。を語ることが大切です。治安維持法による厳しい弾圧の中でも、希望をもってたたかっていた先輩の活動に学び、新たな境地を開いた野党共闘をさらに発展させ、引き続き、頑張りたいと思います。

調査部 リレー投稿⑥-3

田辺 実

Ⅱ 人間の尊厳を守りぬいた 姿、国際連帯の発露、

感動を呼び、怒りを巻き起こす

内容の特徴

新刊『物語』は、強靱な思想によって鍛えられた先人が先駆者の誇りをもって立ち向かう姿、さまざまな葛藤を抱えながらも、一致して闘い、人間の尊厳を守りぬいた姿、国際

連帯の発露、権力者の卑劣な弾圧、虐待との生死をかけた闘いなど、想像を絶する困難ななか収監者たちがいかに闘ったかが随所に読み取れることでしょう。極寒の網走刑務所に比して、「温暖な奈良の地の刑務所」と言われたが、どんなに過酷な刑務所であったかを端的に占める事例として、釈放の理由が「死亡」（146ページ）とあることにも注目します。これらの内容は、読む人の感動を呼び、怒りを巻き起こすでしょう。以下、若干の具体例を示して置きます。

・戒谷春松は、「般若寺坂―奈良刑務所回想」で、刑務所における囚人に対する虐待を自分の経験を含め暴露・告発しています。（46ページ）

・高田鉦造は、『一粒の種』で、食事をとるときに、「ご飯は80回以上噛む」（55ページ）、獄内で工夫して、「獄中通信」（57ページ）を編み出したり、「ふんどしに手紙を縫い付けて連絡取りあう」（58ページ）ことなど記しています。

・楠山通は、『不屈のあしあと』で、「ノルマと報奨金」（71ページ）、「ハンストを闘う松田喜一」（74ページ）、「プロレタリアに国境なし」（77ページ）など、刑務所内での闘いを具体的に記述しています。

・神林規子の「老婦人の戦争」（86ページ）は、獄内で刑務官に襲われ抵抗した女性が受けた仕打ちを告発しています。

・国領伍一郎は、「紀元二千六百年恩赦」で、網走刑務所から奈良刑務所に移監された際に、「僕は何ら有難いとは思って居ない僕は飽迄も正しい吾々の主義主張の貫徹の為に命を賭する決心でいる」と、特高に、昂然と述べたことが『特高月報』に記載されています。（116～119ページ）。

・「第2章」（88ページ～115ページ）では、「治安維持法で奈良刑務所に収監された人々」のプロフィール、エピソード、事績等が簡潔ではあるが紹介されています。

以上は、ほんの一端に過ぎません。読む人それぞれにおいて、きつときさまざまな感想を持たれることでしょう。（次号に続く）

「不戦の誓い」を新たに憲法守り生かす草の根の運動を

開戦の翌朝に非常措置に基づき検束された父・良治を思う

国賠同盟奈良本部顧問 溝川悠介

80年前の今日、12月9日早朝、対米英宣戦布告に伴い、「戦争に反対しそうな」主要なる者に対し、全国一斉に非常措置（検挙、検束、予防拘禁）が断行されました。（添付の特高月報昭和16年12月分参照）全国で宮本百合子ら396名、大阪では38名（日本人思想犯18名、朝鮮人民族運動20名）が検挙され、大阪の「非合法グループ」の一人として、父・溝川良治も検挙されました（特高月報）。当時父（32歳）は家庭も持ち（1938年結婚）、繊維機器関係の実業界におり、第一線の政治活動は退いていたと思われませんが、同時に検挙された上野さんらと「良心的非合法グループ」として特高に目を付けられていたようです。

先人たちは命がけで侵略戦争に反対した

このときの拘束の様子は、3歳だった姉はよく覚えており、「永和の家に朝、特高がやって来て父を連行、（武器となることを警戒してか）寝間着の帯を付けさせず、小阪の布施署へ連行された」そうです。父の活動についてほとんど知らされていなかったと思われる身重の母はどんなに動転したことか察するに余りあります。後年、父は「生きて娑婆には戻れないと思った」と兄に述懐していたそうです。当時、侵略戦争に反対し自由を守ろうとした人たちは文字通り命がけだったんですね。戦争は、反対した人、行かされた人、送り出した家族など、すべての国民に根こそぎ犠牲を強制します。こんな不条理はあってはなりません。

本年はアジア太平洋戦争開戦80年の節目の年であり、12月8日前後に多くのドキュメンタリーも放映されます。無謀な日本軍国主

義の戦争によって310万人以上の日本国民と2000万人を超すアジアの人々が犠牲になりました。日本は此の悲惨な戦争を二度と起こさないことを誓い、世界に誇るべき平和憲法を創り守ってきました。

いま、岸田政権の下で改憲勢力が息を吹き返し、9条改憲や「敵基地攻撃能力」の保有などの策動を強めています。安倍元総理の「9条に自衛隊を明記」がトリガーとなって、政府・自衛隊は自治体に対し、「自衛隊適齢者名簿」を住民基本台帳から本人の同意もなく抽出して紙や電子媒体で自衛隊に提出9

『特高月報』（昭和16年12月分）には、「非常措置に関する件、12月8日対米英宣戦布告に伴う、非常事態に即応する為12月9日早朝を期し、主要なるものに対し一斉に検挙検束等の措置を断行せし」と記されています。引き続く頁の大阪の検束者18名（非合法グループ）の中に溝川良治が出てきます。

第55回「建国記念の日」に反対する 奈良県民集会

と き 2022年2月10日(木) 18:30～

ところ 奈良県教育会館4階

※オンライン並行開催

※会場定員40名 事前申込み制 FAX またはメール
で住所・氏名・連絡先を明記して奈教組まで。

※オンライン参加申し込みは、メールで奈教組まで。

講演 渡辺一枝さん

「私の戦争体験と9条運動」

するよう、憲法が保障するプライバシー権の侵害が事実上強制しています(奈良では9自治体が紙媒体で提出)。
私たちは、開戦の日に当たり「不戦の誓い」を新たにし、市民と野党の共闘で、憲法を守り生かす運動を草の根で力強く発展させようではありませんか。

編集後記

コロナ禍のもと、複雑・困難ななか、国民本位の政権樹立をめざし本格的にたたかった歴史的な闘いを発展させる新たな年を迎えました。

当号では、国賠同盟が提唱して発足した「奈良・長谷川テル顕彰の会」が行った「王希奇『一九四六』高知展」鑑賞バスツアーの取り組みや、1950年、毎日新聞からレッド・ページされた林一雄氏の娘と息子(橿原市在中の林直子さんと林友雄さん)の講演会『不屈の家族 林家の人々』の内容が掲載されています。また、溝川悠介県本部顧問の「開戦の翌朝に非常措置に基づき検束された父・良治を思う」が掲載されるなどの記事と論文が掲載されています。

これらの内容は、100年前、70年前の先人の命がけの闘いを発掘し、継承する貴重な取り組みの一環です。

支配層によって歪められた歴史認識をただし、再び戦争と暗黒政治を許さない闘いの先頭に立って、全民主勢力と力を合わせ活動する国賠同盟の役割は何時になく重要となりました。

1月29日に開かれる第34回県同盟総会を成功させ、国賠同盟の歴史的役割を果たす立場で、国賠同盟の国会請願署名の推進、仲間増やしに今年も全力で取り組もうではありませんか。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部常任理事会